

みずほCustomer Desk Report 2020/02/27号(As of 2020/02/26)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.32
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	110.30	1.0879	120.00	1.3000	0.6604
SYD-NY High	110.70	1.0908	120.57	1.3008	0.6607
SYD-NY Low	110.13	1.0855	119.78	1.2896	0.6542
NY 5:00 PM	110.43	1.0881	120.15	1.2898	0.6542
NY DOW	26,957.59	▲ 123.77	日本2年債	-0.200	0.00bp
NASDAQ	8,980.78	15.16	日本10年債	-0.090	1.00bp
S&P	3,116.39	▲ 11.82	米国2年債	1.1627	▲ 6.52bp
日経平均	22,426.19	▲ 179.22	米国5年債	1.1557	▲ 2.86bp
TOPIX	1,606.17	▲ 12.09	米国10年債	1.3346	▲ 1.92bp
シカゴ日経先物	22,220.00	140.00	独10年債	-0.5085	0.45bp
ロンドンFT	7,042.47	24.59	英10年債	0.5025	▲ 1.70bp
DAX	12,774.88	▲ 15.61	豪10年債	0.9255	1.25bp
ハンセン指数	26,696.49	▲ 196.74	USDJPY 1M Vol	6.75	▲ 0.15%
上海総合	2,987.93	▲ 25.12	USDJPY 3M Vol	6.32	0.02%
NY金	1,643.10	▲ 6.90	USDJPY 6M Vol	6.36	0.13%
WTI	48.73	▲ 1.17	USDJPY 1M 25RR	-1.35	Yen Call Over
CRB指数	166.28	▲ 2.21	EURJPY 3M Vol	7.13	0.23%
ドルインデックス	99.00	0.03	EURJPY 6M Vol	7.17	0.25%

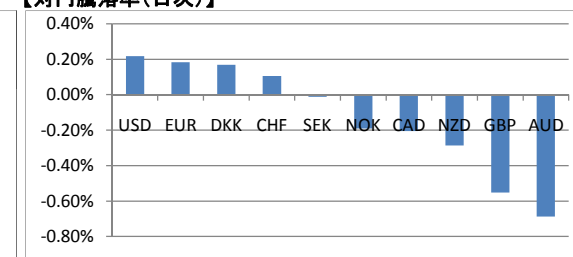
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
2月27日	00:00	米 新築住宅販売件数	1月 764k	718k
【本日の予定】				
Date	Time	Event	予想	前回
2月27日	19:00	欧 消費者信頼感・確報	2月 -	-6.6
	22:30	米 GDP(年率/前期比)	4Q 2.1%	2.1%
	22:30	米 個人消費	4Q 1.7%	1.8%
	22:30	米 ｺﾌﾟCE(前期比)	4Q 1.3%	1.3%
	22:30	米 耐久財受注(前月比)・速報	1月 -1.5%	2.4%
	22:30	米 耐久財受注(除輸送用機器)・速報	1月 0.2%	-0.1%
	22:30	米 新規失業保険申請件数	2月 212k	210k
2月28日	00:00	米 中古住宅販売契約(前月比)	1月 3.0%	-4.9%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】春の始まり・・・

関東では週末に春一番が吹いた。春の訪れを感じさせる象徴的な出来事である。従来であれば“凍てつく冬の終わり”とも表現されるはずだが、今年の日本は暖冬。スキー場は雪不足でオープンを延期するなどの対応を迫られ、一部では廃業を決定したスキー場もあった。そう。そしてもう一つ、今年の冬を象徴するものがウイルス性疾患であることに疑いの余地はないであろう。一般的にウイルスは“湿気や暑さに弱い”とされ、ウイルスの疾患として有名なインフルエンザは例にもれず、冬の寒い時期・そして乾燥した地域での感染の拡大が特徴と言える。今年も世界的にみればインフルエンザの脅威に晒されている事実に変わりはないが、少なくとも日本では暖冬だからなのか、それとも予防の意識が高まっているからか、例年より患者数が少ないとのこと。そして今現在、世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されている状況は既報の通り。北半球は、これから湿気や気温の上昇が期待でき、それに伴う事態の収束を望みたいところであるが、新型コロナウイルスに関してそもそも発生地である湖北省は冬でも湿潤な気候であり、現在感染が広がっているイランは冬でも最高気温が20℃を超える日が少なくない。従来の尺度で考えられるかは未知数である。

当初、市場を見る限り、新型コロナウイルスに関して世界の投資家たちは極東の一国の出来事くらいにしか認識していないように感じたが、イタリヤ・韓国・イランなどでの感染拡大を受けて、いよいよ他人事とは考えられなくなったのか、先週以降“質への逃避”が強まるなど投資家たちがリスク回避の動きを見せているように感じる。経済への影響については様々な試算が出ているが、IMFは1/20の見直し発表以降、2/22には中国の成長率の▲0.4%下方修正を発表、世界成長率も▲0.1%引き下がるという指摘がある。この修正に於いても、感染拡大(パンデミック)といったシナリオをメインに据えているとは到底思えず、下方修正リスクは残存しているのではと感じる。足元のドル円は、米国の予防的な利下げ観測が俄かに高まりを見せる中で、下値を模索する動きが出てくる蓋然性が高いのではと考えている。輸出企業のお客さまに於かれては、安心した春を過ごすために早めのヘッジを推奨したい。(ウエノ)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア

ブル	ベア
11	9

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 上野・松本 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682